

おいしいお米ができるまで

三次市立川地小学校 五年 坊田 眞唯

私が毎日食べているお米は、おいしいちゃん

とおばあちゃんが生懸命作ってくれている

お米です。品種は、あきさかりといいま

す。とてもおいしいお米です。県外で働いて

いるお兄ちゃん達にも送っています。

私は、毎日食べているお米がどのように作

られているのか気になり、調べてみることに

しました。おいしいちゃんやおばあちゃんに話

を聞いたリ、インターネットで米づくりにつ

いて調べたりすることになりました。

まず、四月になつた分苗づくりが始まりま

す。育苗箱に土を入れ、種をまき、ビニール

ハウスの中で育てるそうです。

おばあちゃんに話を聞くと、

「毎日毎日の水やりは、大変なんよ。汗でい

しょびしょになるんよ。」

と言っていました。ハウスの中は、とても暑

いそうです。そんな暑いところで作業するの

はとも大変だと思ひます。

おいいちやんは、草かりなど田植えの準備をします。トラクターで田んぼを耕したり、水を入れて田んぼを平らにしたりするそうです。一人でたくさん作業をしてゐるおいいちやんは、本当にすごいと思ひます。

次に、苗が大きくなつたか、おいいちやんが機械で植えます。私は三年生の時、学校の授業で、手で苗を植えたことがあります。どろの中は歩きににくくて、なかなか前に進まず、

しゃがんだ体勢が続くので、こしが痛くなつて大変でした。おいいちやんが、昔の人は、全部手で植えたんよ。と教えてくれ、昔の人はすごいなと思ひました。

田植えが終わつたか、おいいちやんは朝早く起きて田んぼを見に行きます。苗が大きくなるまで、草を刈つたり、水の管理をしたり、肥料をやつたり、たくさんすることがあるそうです。おいいちやんは、一日も米作りを休

むことがなく、いつもお米がおいしく育つように考えているのだと思います。

お米作りは、自然災害などの心配もありま
す。例えば、台風がきたら稲がたおれるので
困るそうです。また、いのししが田んぼの中
に入って田んぼを荒らすことがないように、
電気のさくをしているそうです。

秋になり、稲が大きくなったら機械で稲か
りをします。そして、ライスセクターに持っ
て行きお米になります。春にまいた種が立

派なお米が育つまで、たくさんのお世話をし
て、無事に収穫ができた時、おいしいちゃんも
おばあちゃんもやうと安心するそうです。

お米ができるまでには、たくさんの方の苦勞が
あることがわかりました。私は、給食を全部
食べ分えずに残してしまうことがあったので、
なるべく残さず食べようと思います。そし
て、おいしいお米を作ってくれているおい
ちやん、おばあちゃんに感謝し、これから
元気でいてほしいと思います。